

下野市歴史文化基本構想(案)に関するパブリックコメントの結果について

「下野市歴史文化基本構想(案)」に対するパブリックコメントの結果、以下の貴重なご意見をいただきました。
お寄せいただいたご意見の要旨とそれに対する市の考え方を下記のとおり取りまとめましたので、公表いたします。

1. パブリックコメントの実施状況

(1)ご意見の募集期間

平成28年11月11日(金)～11月25日(金)

(2)応募者数及び件数

- ・応募者数 2名
- ・件数 12件

(3)提出方法の内訳

郵送	FAX	電子メール	直接持参	計
		2		2

(4)ご意見の取扱い

いただきましたご意見は、適宜整理集約して掲載しており、パブリックコメントの対象となる事項についてのみ考え方を示させていただきます。
いただきましたご意見のうち、ご意見の内容が文体・表現や用字・用語に対してのご意見は掲載しておりませんが、必要に応じて反映させていただきます。

2. ご意見の要旨とそれに対する市の考え方

No.	該当項目	ご意見の内容	ご意見に対する市の考え方
1	総論	日酸公園にある旧型国電のクモ工は今となっては貴重な近代遺産である(同型車は存在しない)。しかしながら、現状で整備が十分とは言い難い。一方で、歴史的価値などを考慮すると、「文化財」と認知するには時期尚早ということも理解できるし、指定された場合、現状のような自由な遊び場としての提供に制限が付くのも心苦しい。そこで準文化財として指定し、文化的価値を尊重しながら保存活用していくことはできないだろうか。また、今回の歴史文化構想にも潜在的案件として取り上げられないだろうか。下野市に少ない近代以降の遺産であるとともに、使い方によっては全国規模での重要なアピールツールともなりうるかと確信する。	旧国鉄時代に製造されたクモ工は、救援車として使用された電車です。救援車自体の数が少なく、今なお現存していることから日酸公園に所在するクモ工は非常に注目されているところです。本構想では、準文化財に相当すると考えられる未指定文化財の分類を「第2章 下野市の概要と文化財」「4. 歴史文化遺産総合把握調査」で扱ったものに限定しています。今後の構想見直しにおいて未指定文化財の範囲を広げるとともに、クモ工の調査研究を進め下野市の歴史遺産として保存活用できるよう検討します。

2		<p>本基本構想で時代や地域を横断的に解説しているところですが、これら時代ごとの概要をわかりやすくまとめたブックレット（基本構想でなく歴史読本的なもの）のような資料ができるとよいと思います。 →共有することで歴史資源を活用した取組につながる。</p>	<p>本構想を易しくまとめたものとして、現在概要版の作成を行っています。概要版では、本市の歴史資源をどのように関連づけ、どのように保存活用していくのかという考え方をわかりやすく提示していきます。時代別の流れをわかりやすく解説したブックレット等は現在作成しておりませんので、次回の構想見直しにおいて検討します。</p>
3		<p>文化財の捉え方ですが、歴史的に重要なもののみならず、地域特性があらわれる民家や長屋門、屋敷林、あるいは地域の風習なども歴史資源として捉え、保全活用を支援できるような取組を希望します。 →人口が減少している地区などに散見されます。（例 下長田など）</p>	<p>民家は合掌造などに代表されるように、その地域に特有の材料・構造・間取りが採用されています。さらに、部屋の名称や習俗、祭神や儀礼など民俗学的視点から地域性を考えることができます。これらは長屋門、屋敷林についても同様のことが言えます。これらの歴史遺産については、民俗学や建築史からもアプローチを行い、本構想の見直しに際し保存活用への方針を検討します。</p> <p>地域の風習について、本構想では「第3章 下野市の歴史文化の特性」の民俗文化の特性の中で、「講」、「祭り」と民俗芸能」、「民間信仰・風習」の3項目をまとめました。これらの項目は、「第4章 歴史文化保存活用計画」において、日光街道関連文化財群のうちの無形民俗文化財群として保存活用の対象となっています。さらなる調査研究を進め、積極的な保存・支援を行っていきます。</p>
4		<p>田川から二宮堰で取水し近代化の過程で整備された新川が下野市姿川で合流し公園も整備されているところですが、計画内に特に記述が見当たりませんでした。近現代の歴史資源や農業土木遺産も含め、地域資源の発掘を歴史研究による調査と平行して、地域住民や市民が発掘するような取組ができると良いと思います。</p>	<p>近現代の歴史資源や農業土木遺産などの近代化遺産については、調査が不十分な点があるため、今後の課題として調査を進めていきます。「5. 保存活用の仕組みづくり」「(7) 保存活用のための体制整備」の中に、③市民との協働体制の構築について記載しました。ご指摘にある「市民による地域資源の発掘」は、この協働体制の具体的な方策として今後検討していきたいと考えています。</p>
5	第3章	<p>「1下野市の歴史文化」、「2下野市の歴史文化の特性」において、過度に冗長性の高い文章がある。一例として「交通」に関する内容では、戦後の交通網の整備の部分が極端に重複している。同様にして「干瓢文化」や「講」の項目についても、同じ内容を不必要に繰り返している部分があるので、整理することで内容がシンプルかつコンパクトになり読みやすくなる。</p>	<p>戦後の交通網の整備に関しては、同じ内容を景観と歴史の概要という異なる視点から記述しています。「干瓢文化」や「講」は本市の歴史文化を語る上でキーポイントとなるため、同様の内容でも複数回記述し強調させています。それぞれ文章の矛盾点は適宜修正し、整理をしていきたいと考えています。</p>

6	第4章	埋蔵文化財については現在も調査研究を進め、日々新たな知見が得られていることと思います。古代、蝦夷～東国～ヤマトの関係を紐解く重要な歴史資源が下野市、および周辺にあるのではないかと思います。周辺地域も含めた協力体制のもと、調査研究だけでなく歴史資源の保全活用、環境整備やネットワークの形成ができるかとよいと思います。市域を超えたアクセスの方法や、景観計画などにつながる可能性があると思われま。	本市の歴史文化は、近隣自治体を含む地域一帯の広がりの中でその特色を捉えることができます。文化財の保存活用を推進するために、近隣自治体との広域連携は必要不可欠であり、第4章において大谷石、日光道中や干瓢生産などの項目について近隣自治体と共同で事業を行う可能性について触れました。今後その連携を強化し、市域を超えた保存活用のあり方を考えていきます。
7		周辺地域との協力に関連し、東山道や鎌倉道、日光街道関連文化財なども、時代や視点の切り方により、連携する地域もことなってくるかと思われま。例えば、例幣使街道につながる壬生道は「奥の細道」でもあるかと思われま。また、日光と下野市の歴史資源も近世だけでなく薬師寺との関係で紐解くこともできるかと思われま。 →様々なストーリーをつくれる可能性がある。	本構想では、関連文化財群を下野市の歴史文化を物語るテーマと時系列に沿ってまとめました。次回の見直しにおいて、時代や視点の切り方を変えた関連文化財群の設定について検討していきたいと考えています。ご指摘のとおり、壬生通は例幣使街道と合流し、また「奥の細道」として松尾芭蕉が通った道でもあります。日光と薬師寺を結びつけるポイントには、薬師寺で受戒し日光を開山した勝道上人が挙げられます。今後このような調査研究を続け、時代・視点を変えた様々なストーリーの可能性を模索していきます。
8		p. 79の地図に本市の壬生道がありますが、もう少し俯瞰して小山市の奥州街道から分岐するところも入った地図もあると、本市の位置付けが理解しやすいと思われま。これは他の日光往還についてもいえます。	関連文化財群の地図に関しては、街道に対する本市の位置付けというよりも下野市域に通る街道という視点で作成しました。日光道中壬生通は小山市喜沢から鹿沼市楡木を通り日光までつながる道ですが、小山市や壬生町など周辺自治体と連携をしていく中で、街道と市の位置付けを踏まえた広域的な地図の作成をしていきたいと考えています。
9		p. 87歴史文化保存活用区域の図 活用区域として国分寺周辺、三王山、薬師寺、下古山等ありますが、歴史的な重要な資源だけでなく、これまで形成されてきた農村の家並みや田畑とに現代的なデザインも加味した界隈づくりが期待されま。	本構想では、国分寺地区、薬師寺地区、石橋・小金井地区、三王山地区を歴史文化保存活用区域としています。どの地区についても保存活用方針に「歴史的景観の保全と創出」を掲げ、特にゆがお畑と雑木林を中心とした景観の保全に取組むことを目指しています。現代的なデザインとの融和に関しては今後の検討課題とし、次回の見直しにつなげていきます。

10		<p>歴史文化保存活用区域外の地区でも、例えば都市計画の事業が進む仁良川地区などにも立派な長屋門があったり、歴史的な道であったりします。歴史資源の動態保存が望まれますが、やむなく資源そのものの継承ができなくとも、例えば看板の設置など、事業化のなかで総意工夫できると良いと思われれます。</p>	<p>ご指摘のとおり、歴史文化保存活用区域外の仁良川地区には何軒か長屋門が現存しています。本構想で設定した歴史文化保存活用区域外でも、市に残る歴史遺産を守り伝える工夫を行っていきます。</p>
11	第5章	<p>長期的な施策として整備する方法の案としては、クラウドファンディングを提案する。これは一般の人々を対象に、ある提案に対して賛同する方から寄付を集める手段であり、現状で広く普及しつつある（多くの場合、いくらかの謝礼を要する）。日酸公園のクモエについては、鉄道関係だとファン層も多く、こうした整備の経費を工面するには適した方法と考えられる。将来的に普遍化する手段かどうかは現時点ではわからないが、現状では有用な手段であると考えられる。</p> <p>以上をふまえ、「基本構想の実現に向けた指針」の中の「文化財の保存と活用を推進するための取組と方針」-「新たな財源の検討」の案の中に企業財源だけでなく、クラウドファンディングを加えてもいいと思う。</p>	<p>クラウドファンディングは、市民や一般の方々と協働で文化財を保護できるという点で非常に魅力的な方法です。今後クラウドファンディングを1つの可能性として、新たな財源の検討を進めていきたいと考えています。</p>
12	資料編	<p>現状として歴史文化に接する機会のある世代が定年世代と小学生などの児童に限られており、それらの世代をターゲットとした施策は需給バランスを考慮した最も適切なものであるが、幅広い層を対象とした取組も行う必要があると考えられる。長期的視野でどのような対策が取れるか世代ごとの対応策を検討してもらいたい。特に20～50代の青年～壮年層向けの歴史文化への興味を呼び起こせるような施策やそれを引き出すべき検討会議の設置など、前向きに推進していくための指針を記載されたい。</p>	<p>現在の方針として、幼い頃から文化財に親しんでもらい、郷土愛と文化財を大切に思う気持ちを育てるために、小学生を中心に見学や体験学習を行っています。ご指摘のとおり、20～50代へ歴史文化に興味をを起こせるような施策が必要と考えられます。今後の見直しにおいて、検討課題とさせていただきます。</p>